

# 回 会 報

新日本美術協会

## 平成二十四年度総会開催される

六月三十日(土)都内(ハイライフ・プラザ)に於いて二十四年度総会が開催されました。一般会員の出席者は低調でしたが、議決必要員数は委任状により確保されました。

総会は事務局が用意した次第に従ってすめられ、総合同会に井上委員、議長に富岡委員が選出され議事に入りました。

第一号議案、平成二十三年度事業報告を事務局長が、同年収支決算及び財産目録の報告を鈴木委員が、監査報告を小宮山委員が行い異議なしで了承されました。

第二号議案、平成二十四年度事業計画(案)を事務局長が、収支予算(案)を鈴木委員が説明しそれぞれ承認されました。

その他の議案として事務局長から会員の入出状況等の報告があり、とどごうりなく終了した。これよりいよいよ三十六回展の本格始動となります。

議事の途中で中尾会長がお見えになり、これまで病気による委員会欠席等の深謝挨拶をされました。体調は順調に回復しており、本展には出席したい旨意欲を話されました。

### いざ上野の森・都美術館へ

三十六回展迫る 実行委員長 永野 信

猛暑とロンドンオリンピックに沸いたこの夏もようやく峠を越え、出展作品もほぼ仕上がっていることと思います。

事務局  
千葉県柏市大津ヶ丘  
3-17-17-401  
森屋治三方  
Tel.04-7191-6760

編集委員  
本部 小高峯夫  
富岡ネム  
大石亨  
京都 四方公子  
広島 藤原清二

過去二回、新日美展は「美術の森、上野」にこだわって上野の森美術館で開催し、それなりに成功を収めてきましたが一方で出展点数を減らしたことも事実です。

今回二年ぶりにリニューアルした都美館にもどってきました。美術館の周りは大きな樹木を残して綺麗に刈り払われて明るくなり、館内はゾットがしかれ、明るくなりました。

新日美展の会場はロビー階の上の一階奥に二プロックを与えられ、三十六回展はこれより三十三割増えますので展示効果も立派になることでしょう。

そして、新日美には今後五年間、この期間に、このスペースが与えられることになっていますので今回の三十六回展はどうしても成功させなければなりません。皆さんの大作、力作を多数期待しています。



第35回展表彰式風景

### 新任委員紹介



小林由美子委員  
(工芸)

委員をお受けして

この度委員という責任ある役目をお受けすることとなり正直私に出来るか困惑いたしました。先日新日美総会及び委員会に初めて出席し委員の皆様のお話を伺い、新日美に対する熱心さと共に優しいお気持ちを感じホッと致しました。少しでもお役にたてばと思っております。

自由な表現が魅力の新日美の工芸部門で私は茶陶作品を出品させて頂いています。これまで制作し続けた陶作品と昔から描き続けてきた絵画作品で初めての個展を十月に行うことになり、春より頑張っ準備をしています。

ところが、会報を見て今年の新日美展の会期が個展と二日間重なる事を知り、更に今回の役員のお知らせを頂き二日間のお手伝いができないことが分かりました。偶然ではありますが最初からのつまづき申し訳ございません。

今年新しい都美術館での開催。どのような作品を拝見できるのかどのような展示会場になるのかと、とても楽しみです。これからも大小の石につまづきながらと思いますがよろしくお願ひします。



山崎昌子委員  
(工芸)

工芸部門の、富岡さんよりご依頼を受けました。革工芸の世界で三十五年あまりこの世界

しか知らない私が先日、新日美の総会に出席させて頂きました。

森屋事務局長はじめ、役員の方達の新日美に対する思い、意気込み、愛情が静かな中にもひしひしと、伝わってきました。会報として毎年開催される新日美展においても役員それぞれの力が大きいことどれだけのひとが縁の下力持ちになつて動いているか改めて心にしみました。

新日本美術協会会長先生より委嘱状が届いたときは驚き、身がしまる思いでしたが絵画であれ工芸であれ、創造することは同じだと思ひ、いろいろ勉強させて頂いた。少しでもお役にたてばと思っております。よろしくお願ひ申しあげます。



河野みち子委員  
(絵画)

この度、委員のお話を頂きました。今第一線を引かれています桜井さんより声をかけられ、多摩支部に所属することになりました。

会員になり十年余りになりますが、うつかり者の私を色々ご指導下さり、ご迷惑をおかけしながらも、続けてこられたのも皆様のおかげと感謝しております。

長年会を運営してこられた諸先輩方の大変なご苦労をよそに気楽に会に参加させて頂いておりました。これからもそのつもりでいまして、運営側の一員になると言うことは、意識を少し変えなくてはと、気持ちを引き締めています。少々重荷ではございます。

新装なった上野の都美術館のみを見ましても、多くの美術団体があり、新日美の運営がいかに大変であるかがわかります。

これまで諸先輩方のご努力で脈々と続けられてこられた事に頭の下がる思いでございます。